

## 第 4 回 鹿屋市短期経済観測調査（かのや短観）結果概要

「第 4 回鹿屋市短期経済観測調査（かのや短観）」を実施し、結果をとりまとめましたのでお知らせします。

概 況	
業 況 D I	<p>○今期は▲12(良い&lt;悪い)と、前期(▲6)より<u>やや悪化</u>した。</p> <p>▶業種別では、農水産業と卸売・小売業は改善したものの、建設業(前期▲21→今期▲47)とその他(13→▲17)は悪化した。</p> <p>○来期は▲16(良い&lt;悪い)と、<u>やや悪化</u>する見通し。</p> <p>▶業種別では、農水産業はプラス圏に留まるものの悪化する見通し。</p>
売上・完工高 D I	<p>○今期は▲8(増加&lt;減少)と、前期(▲5)より<u>やや悪化</u>した。</p> <p>▶業種別では、農水産業は 30 と前期(▲4)から大幅に改善しプラスに転じた。一方、農水産業以外の全ての業種は悪化し、特に建設業では▲53 と前期(▲32)からさらに悪化した。</p> <p>○来期は▲10(増加&lt;減少)と、<u>ほぼ横ばい</u>の見通し。</p> <p>▶業種別では、農水産業は悪化すると見込まれる。</p>
製品・商品在庫 D I	<p>○今期の在庫の過不足感は「過剰」が 8%、「適正」が 75%、「不足」が 17%、DI は ▲9(過剰&lt;不足)となり、前期(▲9)と<u>同水準</u>であった。</p>
製(商)品販売単価 D I	<p>○今期は▲5(上昇&lt;低下)と、前期(▲5)と<u>同水準</u>であった。</p> <p>▶業種別では、卸売・小売業は 17 と前期(▲6)から上昇しプラスに転じた。</p> <p>○来期は 0(上昇=低下)と、<u>やや改善</u>する見通し。</p> <p>▶業種別では、その他は大幅に上昇すると見込まれる。一方、建設業は▲41 と、依然として厳しい状況が続く見通し。</p>
原材料仕入単価 D I	<p>○今期は 22(上昇&gt;低下)と、前期(19)より<u>やや上昇</u>した。</p> <p>▶業種別では、建設業と製造業、その他で上昇しているものの、製(商)品販売単価 DI は低下しており、仕入単価の上昇を販売単価に転嫁しにくい状況であることがうかがえる。</p> <p>○来期は 27(上昇&gt;低下)と、<u>やや上昇</u>する見通し。</p> <p>▶業種別では、農水産業は上昇、卸売・小売業とその他もやや上昇すると見込まれる。</p>
資金繰り D I	<p>○今期は▲11(楽&lt;苦しい)と、前期(▲15)より<u>やや改善</u>した。</p> <p>▶業種別では、農水産業が▲4 と前期(▲27)から大幅に改善したものの、依然としてマイナス圏に留まり、建設業と製造業、その他もマイナス圏にある。</p> <p>▶一方、卸売・小売業は 8 と前期(▲6)から改善しプラスに転じた。</p> <p>○来期は▲9(楽&lt;苦しい)と、<u>ほぼ横ばい</u>の見通し。</p> <p>▶業種別では、農水産業は悪化する見通し。</p>
雇用人員 D I	<p>○今期は▲33(過剰&lt;不足)と、前期(▲35)と<u>ほぼ横ばい</u>であった。</p> <p>▶業種別では、製造業とその他で改善したものの、依然として全ての業種でマイナスとなっており、特に建設業では▲53 と雇用の不足感が強い。</p> <p>○来期は▲35(過剰&lt;不足)と、<u>ほぼ横ばい</u>の見通し。</p> <p>▶業種別では、製造業でやや悪化、建設業で同水準であり、労働力不足の状態は続く見込まれる。</p>
損 益 D I	<p>○今期は▲4(好転&lt;悪化)と、前期(▲10)より<u>やや改善</u>した。</p> <p>▶業種別では、農水産業は 18 と前期(▲9)より改善しプラスに転じた。</p> <p>○来期は▲6(好転&lt;悪化)と、<u>ほぼ横ばい</u>の見通し。</p> <p>▶業種別では、卸売・小売業は 30 と今期(15)より改善するが、その他が▲5 と今期(13)より悪化しマイナスに転じ、建設業も▲41 と、今期と変わらず厳しい状況が続く見通し。</p>

【調査概要】

1 調査対象： 市内事業所 175 先

〔 農水産業 40 先、建設業 20 先、製造業 63 先、卸売・小売業 20 先  
その他(不動産業、運輸業、宿泊業、飲食業)32 先 〕

回答数：134 件 回答率：76.6%

2 調査時期： 平成 28 年 7 月

3 対象期間： 平成 28 年 4～6 月期実績(今期)、平成 28 年 7～9 月期見通し(来期)

4 調査方法： 郵送方式

5 集計方法： 回答数の構成比を求めた上で、「良い」の構成比から「悪い」の構成比を引いて「D I 値」として指標化しました。

例えば、景況感の「良い」が 10%、「悪い」が 50%の場合、D I 値は「▲40」となります。「D I」(Diffusion Index、ディフュージョン・インデックス)は、企業や業界の景況感などを数値化した指標で、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」(日銀短観)などで用いられています。

6 質問項目： 業況、生産高、売上・完工高、在庫、仕入単価、資金繰り、雇用人員、損益

---

**鹿屋市 市長公室政策推進課**

〒893-8501 鹿児島県鹿屋市共栄町 20 番 1 号

T E L : 0994-43-2111 F A X : 0994-42-2001

m a i l : seisaku@e-kanoya.net

第4回 鹿屋市短期経済観測調査（かのや短観）結果

(単位：%)

状況 項目	平成28年1～3月 前 期				平成28年4～6月 今 期					平成28年7～9月 来 期 見 通 し			
	良い 増加	普通 同程度	悪い 減少	DI	良い 増加	普通 同程度	悪い 減少	DI	前 回 調 査 時 今 期 見 通 し	良い 増加	普通 同程度	悪い 減少	DI
	(A)	(B)	(C)	(A-C)	(A)	(B)	(C)	(A-C)		(A)	(B)	(C)	(A-C)
<b>自社の業況(景況感)</b>	<b>18</b>	<b>59</b>	<b>24</b>	<b>▲ 6</b>	<b>17</b>	<b>54</b>	<b>29</b>	↓ ▲ 12	▲ 21	<b>10</b>	<b>63</b>	<b>27</b>	↓ ▲ 16
農水産業	9	87	4	4	32	57	11	↑ 21	2	16	72	12	↓ 4
建設業	16	47	37	▲ 21	6	41	53	↓ ▲ 47	▲ 9	0	47	53	↓ ▲ 53
製造業	20	47	33	▲ 13	13	53	34	↓ ▲ 21	▲ 13	12	56	32	↑ ▲ 20
卸売・小売業	19	56	25	▲ 6	15	77	8	↑ 8	0	10	90	0	↑ 10
その他	22	70	9	13	17	48	35	↓ ▲ 17	▲ 1	9	68	23	↑ ▲ 14
<b>生産高(製造業)</b>	<b>25</b>	<b>43</b>	<b>32</b>	<b>▲ 8</b>	<b>21</b>	<b>37</b>	<b>42</b>	↓ ▲ 21	▲ 9	<b>18</b>	<b>55</b>	<b>27</b>	↑ ▲ 8
<b>売上・完工高</b>	<b>27</b>	<b>40</b>	<b>33</b>	<b>▲ 5</b>	<b>27</b>	<b>37</b>	<b>36</b>	↓ ▲ 8	▲ 23	<b>16</b>	<b>59</b>	<b>25</b>	↓ ▲ 10
農水産業	22	52	26	▲ 4	44	41	15	↑ 30	1	21	67	13	↓ 8
建設業	11	47	42	▲ 32	0	47	53	↓ ▲ 53	▲ 9	0	53	47	↑ ▲ 47
製造業	31	28	41	▲ 9	25	30	45	↓ ▲ 21	▲ 13	14	58	28	↑ ▲ 14
卸売・小売業	29	47	24	6	31	38	31	↓ 0	▲ 1	10	80	10	- 0
その他	36	45	18	18	33	38	29	↓ 5	▲ 1	29	48	24	- 5
<b>製品・商品在庫 (適正水準比)</b>	多い <b>9</b>	妥当 <b>74</b>	少ない <b>18</b>	▲ 9	多い <b>8</b>	妥当 <b>75</b>	少ない <b>17</b>	- ▲ 9					
農水産業	12	53	35	▲ 24	0	73	27	↓ ▲ 27					
建設業	0	63	38	▲ 38	0	60	40	↓ ▲ 40					
製造業	8	79	13	▲ 6	8	80	12	↑ ▲ 4					
卸売・小売業	19	81	0	19	17	75	8	↓ 8					
その他	8	83	8	0	21	79	0	↑ 21					
<b>製(商)品販売単価</b>	上昇 <b>13</b>	横ばい <b>69</b>	低下 <b>18</b>	▲ 5	上昇 <b>12</b>	横ばい <b>71</b>	低下 <b>17</b>	- ▲ 5	▲ 11	上昇 <b>13</b>	横ばい <b>74</b>	低下 <b>13</b>	↑ 0
農水産業	30	55	15	15	26	74	0	↑ 26	2	25	75	0	↓ 25
建設業	11	44	44	▲ 33	6	47	47	↓ ▲ 41	▲ 7	6	47	47	- ▲ 41
製造業	12	75	13	▲ 2	8	75	18	↓ ▲ 10	▲ 5	9	78	13	↑ ▲ 4
卸売・小売業	13	69	19	▲ 6	17	83	0	↑ 17	▲ 1	20	80	0	↑ 20
その他	0	93	7	▲ 7	7	73	20	↓ ▲ 13	0	14	86	0	↑ 14
<b>原材料仕入単価</b>	上昇 <b>26</b>	横ばい <b>66</b>	低下 <b>7</b>	▲ 19	上昇 <b>29</b>	横ばい <b>65</b>	低下 <b>7</b>	↑ 22	▲ 18	上昇 <b>29</b>	横ばい <b>69</b>	低下 <b>2</b>	↑ 27
農水産業	32	55	14	18	20	68	12	↓ 8	2	27	73	0	↑ 27
建設業	42	53	5	37	53	41	6	↑ 47	7	47	47	6	↓ 41
製造業	13	83	4	10	24	73	4	↑ 20	4	19	81	0	↓ 19
卸売・小売業	44	56	0	44	15	85	0	↓ 15	5	20	80	0	↑ 20
その他	25	56	19	6	44	44	13	↑ 31	0	47	47	7	↑ 40
<b>資金繰り</b>	楽 <b>7</b>	普通 <b>72</b>	苦しい <b>21</b>	▲ 15	楽 <b>10</b>	普通 <b>69</b>	苦しい <b>21</b>	↑ ▲ 11	▲ 25	楽 <b>9</b>	普通 <b>72</b>	苦しい <b>18</b>	↑ ▲ 9
農水産業	0	73	27	▲ 27	11	74	15	↑ ▲ 4	▲ 5	0	83	17	↓ ▲ 17
建設業	5	63	32	▲ 26	0	59	41	↓ ▲ 41	▲ 7	0	65	35	↑ ▲ 35
製造業	6	74	20	▲ 15	9	70	21	↑ ▲ 11	▲ 10	12	71	16	↑ ▲ 4
卸売・小売業	12	71	18	▲ 6	15	77	8	↑ 8	▲ 1	20	70	10	↑ 10
その他	13	74	13	0	14	67	19	↓ ▲ 5	▲ 2	15	70	15	↑ 0
<b>雇用人員</b>	過剰 <b>5</b>	適正 <b>55</b>	不足 <b>40</b>	▲ 35	過剰 <b>6</b>	適正 <b>55</b>	不足 <b>39</b>	↑ ▲ 33	▲ 45	過剰 <b>4</b>	適正 <b>57</b>	不足 <b>39</b>	↓ ▲ 35
農水産業	5	50	45	▲ 41	0	58	42	↓ ▲ 42	▲ 9	0	61	39	↑ ▲ 39
建設業	5	47	47	▲ 42	6	35	59	↓ ▲ 53	▲ 7	6	35	59	- ▲ 53
製造業	7	60	33	▲ 25	11	57	32	↑ ▲ 21	▲ 11	6	58	36	↓ ▲ 30
卸売・小売業	6	59	35	▲ 29	8	54	38	↓ ▲ 31	▲ 8	10	50	40	↑ ▲ 30
その他	0	50	50	▲ 50	0	65	35	↑ ▲ 35	▲ 10	0	68	32	↑ ▲ 32
<b>損益</b>	好転 <b>17</b>	横ばい <b>56</b>	悪化 <b>27</b>	▲ 10	好転 <b>18</b>	横ばい <b>60</b>	悪化 <b>22</b>	↑ ▲ 4	▲ 17	好転 <b>13</b>	横ばい <b>69</b>	悪化 <b>18</b>	↓ ▲ 6
農水産業	9	73	18	▲ 9	21	75	4	↑ 18	▲ 1	13	83	4	↓ 9
建設業	11	42	47	▲ 37	0	59	41	↓ ▲ 41	▲ 5	0	59	41	- ▲ 41
製造業	16	55	29	▲ 13	17	51	32	↓ ▲ 15	▲ 11	15	63	23	↑ ▲ 8
卸売・小売業	25	50	25	0	23	69	8	↑ 15	3	30	70	0	↑ 30
その他	27	59	14	14	26	61	13	↓ 13	▲ 3	9	77	14	↓ ▲ 5

注)四捨五入の関係上、D I値(A-C)は一致しない場合がある。